

## 生ゴミ処理機器等の概要

機器類名		コンポスト容器	電動式生ゴミ処理機		有用微生物群使用容器
堆肥化の方法		土中の微生物を利用し、生ゴミを分解して堆肥化	生ゴミを発酵・乾燥等の方法により分解し、減量化または堆肥化		有用微生物（EM菌）の活性化を利用し、生ゴミを発酵させて堆肥化
特徴	タイプ	材質 ポリプロピレン 他	◎バイオ式 （微生物で有機物を水と二酸化炭素に分解）	◎乾燥式 （熱ヒーターで乾燥させ、減量化）	密閉バケツ
	処理能力	【容量】 95ℓ、101ℓ（3～5人家族） 130ℓ（4～6人家族） 160ℓ（6～10人家族） 等	・処理能力：1kg程度/日 ・減量率約8割  ※機種によって異なります。	・処理能力：1～2kg/2～6時間程度 ・減量率約8割～9割  ※機種によって異なります。	【容量】 10ℓ～20ℓ 等
	ランニングコスト	・発酵促進剤 ・コンポスト用害虫駆除剤 ・防臭剤 ※必要に応じて利用	・電気代 1,000円弱/月 ・その他バイオ基材代  ※機種によって異なります	・電気代 1,000円弱/月  ※機種によって異なります。	・EM発酵液他
設置場所	屋外設置	屋外（屋根付）設置	屋内外設置	屋外設置	
維持・管理上の留意点	・適度にかき回す ・臭いの発生 ・虫（ウジ・ハエ）の発生	・基本的には、屋外使用が多い。 ・分解処理臭の発生有り（脱臭機能付き） ・バイオ器材等のメンテナンスが必要	・機器の種類により脱臭装置の機能に違い有り ・臭いの発生はほとんどない。	・生ごみを貯めて1週間ほど放置するため容器は2個あった方がよい。 ・管理の際に水分と空気の調整が必要である。	
価格帯	2千円～8千円位  ※規格により価格差有	5万円～12万円位  ※機種・規格により価格差有	5万円位～8万円  ※機種・規格により価格差有	2千円～6千円位  ※規格により価格差有	
処理方法	生ゴミを入れる。	生ゴミを入れる。		生ゴミと有用微生物群（EM菌）を入れる。	
	乾いた土や雑草・落ち葉などをかぶせる。（発酵促進剤を混ぜる方法もある。）	微生物分解式で堆肥化・減量化	温風乾燥式で堆肥化・減量化	直射日光の当たらない所に置く。	
	2～3ヶ月後に堆肥ができあがる。			フタをしっかりと容器がいっぱいになったら1～2週間で堆肥になる。	
助成内容	助成個数	1世帯2個以内	1世帯1台以内		1世帯1個以内
	助成額及び助成限度額	購入価格の2分の1以内 （1個4,000円を限度）	購入価格の2分の1以内 （40,000円を限度）		購入価格の2分の1以内 （1,500円を限度）
※ 消費税を含む助成額に100円未満の端数が生じた場合は端数切捨て）					